

松 山 大 学 論 集
第 22 卷 第 2 号 抜 刷
2 0 1 0 年 6 月 発 行

松山 CIE 図書館蔵書の行方

郡 司 良 夫

松山 CIE 図書館蔵書の行方

郡 司 良 夫

はじめに

- 1 CIE 図書館について
- 2 松山 CIE 図書館について
- 3 松山市以外の四国の CIE 図書館
- 4 松山大学に所蔵されている松山 CIE 図書館の蔵書, その他について
- 5 松山大学以外に寄贈された CIE 図書館の蔵書について

おわりに

附録1 「広報まつやま」に掲載された松山 CIE 図書館およびアメリカ文化センター, 松山市日米文化センター等に関する記事一覧

は じ め に

今から約 60 年前, 日本が敗戦を経験した頃, この松山にアメリカ風の図書館があったことを記憶している人はどのくらいいるであろうか。敗戦直後に生まれた世代は既に 60 代になっているし, このアメリカ風の図書館を利用した世代は若くても 70 代後半から 80 代になっている。

ここに「アメリカ風の図書館」と書いたのは, 昭和 25 年 10 月 11 日に連合軍司令部民間情報教育局が堀之内将校集会所跡に開設した「松山 CIE 図書館」のことである。この松山 CIE 図書館が開設される前後の状況は以下の通りである。

周知のように, 松山市は昭和 20 年 7 月 26 日の夜半 B29 数十機による空襲で旧市街が火の海となり, 松山城の天守閣, 県庁, 市役所, 裁判所, 警察署, 県立図書館, 日銀支店, 久松邸など僅かの民家を残して市街の 90% が焼土と化した。罹災戸数 14,300 戸, 罹災者は死者 251 人を含め 62,200 人で, 罹災戸

数は全戸数の55%、罹災者は人口の53%に当たる¹⁾

その後、同年10月19日に県立図書館の建物は進駐軍の接収するところとなり、県庁内及び県立図書館の建物は進駐軍司令部に充てられた。さらに、翌昭和21年8月には県立図書館の建物を進駐軍が全館使用することになった。以後約7年間、県立図書館はその蔵書と事務所を初め盲啞学校内に、次いで修錬道場、教育会館内へと移しながら県立図書館としての活動を続けた。

昭和27年4月、前年9月に結ばれた講和条約が発効したことにより、県立図書館の建物接収は解除され、占領軍から県教育委員会に返還されて、同年8月漸く二番町の旧館舎へ戻った²⁾

本稿は、急速に進む松山市の戦後復興の中で、連合軍の総司令部民間情報教育局（GHQ/SCAP Civil Information and Education Section、以下CIEと略す。）が松山市に開設したCIE図書館について、それがどのような道をたどって市民の記憶から忘却されていったかを明らかにしたいと思い、これまでに調べのついたところを報告するものである。また、当時の記憶をよみがえらせる蔵書の一部が、今はほとんど手に取る利用者もない状態でいくつかの図書館に眠っていることについて、判明したところも報告する。

なお、松山CIE図書館について調べるきっかけとなったのは、今から2年前のある日、筆者の勤務する松山大学の図書館で調べ物をしている時、書庫でかなり古い洋書が目にとまり何気なく手にしたことに始まる。その図書の標題紙には寄贈印と「SCAP/CIE」という蔵書印が押されていた。この蔵書は紛れもなく終戦後占領軍が日本各地に開設した米国流の図書館の蔵書であったことを示している。その蔵書が松山大学に寄贈されていることに興味を覚え、その経緯について二三調べてみたが大学史に記載はなく、図書館の職員に尋ねてもこれらの図書が寄贈された当時のことを知っている者は既になかった。その上、松山CIE図書館がその後どうなったかを知る人も周囲にはいなかったので、この図書館が開設された頃の松山市やこの図書館が提供していた蔵書、それらを利用して人たちなどについて調べてみるだけの価値があると思い、

空いた時間に少しずつ調べ始めた。

近年、敗戦後 CIE 図書館が各地に設置されて活動したことについて様々な研究が進められている³⁾。たまたま目にした松山大学に所蔵されている CIE 図書館の蔵書の一部についてその実態（および由来）を明らかにすることは、本学の歴史の中でこれらの図書群が何ほどかの役割を果たしていたことを知る手がかりになるかもしれない。また、敗戦後の松山市民にとってこの図書館がどのような意味を持っていたか、そして当時この図書館に通って学んだ人達にどのような影響を与えたかを知る手掛かりになれば幸いである。

注

- 1) 松山市史料集／松山市史料集編集委員会編 第13巻 松山市役所，1988.4. 第13巻：松山市年表 現代（昭和20年8月以降） pp. 295-515
愛媛の昭和史・平成年表1926-2005／難波 穰著 松山：アトラス出版，2006.5.（アトラス地域文化新書） p. 38.
松山市戦災復興誌／戦災復興誌編集委員会編 松山市役所，昭和44年7月 179p. 図17p. 27cm.
松山市誌／松山市誌編集委員会編 松山：松山市長，昭和37年9月 14,684p. 図8p. 折畳地図1枚22cm.
- 2) 松山文化史／城戸八洲著 松山：松山史談会，昭和28年10月 241p. 図14p. 19cm.
- 3) 以下の文献がある。
今 まど子の一連の論文
SCAP/CIE インフォメーション・センター：金沢 中央大学文学部紀要（通号188）2001.5
CIE インフォメーション・センターの図書館サービスについて：デポジット編 図書館学会年報42(1) 1996.03
CIE インフォメーション・センターの図書館サービスについて：九州編 図書館学会年報41(2) 1995.06
アメリカの情報交流と図書館—CIE 図書館との係わりにおいて 中央大学文学部紀要156 1994.06
日本占領軍と図書館 中央大学文学部紀要147 1992.04
根本 彰：占領期図書館政策研究の意義と方法
<http://plng.p.u-tokyo.ac.jp/text/senryoki/report98/nemoto.html> (accessed 2008.12.10)

アメリカン・センター アメリカの国際文化戦略／渡辺 靖著 岩波書店，2008. 5.
xi, 221p. pp. 31-41.

1 CIE 図書館について

松山 CIE 図書館について触れる前に、CIE 図書館についてその概略を述べる。

CIE 図書館は、「CIE インフォメーション・センター」と呼ぶのが正しいようであるが、これまで慣用してきた「CIE 図書館」を本稿では使用する¹⁾。

CIE(民間情報教育局)は「はじめに」で触れたように、連合軍総司令部(GHQ)の中に昭和 20(1945)年 9月 22日設置された。

CIE 図書館は、昭和 21(1946)年 3月に日比谷に最初のセンターを開いた。その後、昭和 23(1948)年 10月末までに、当初計画した人口 20 万以上の 17 市へのセンター設置を達成した。昭和 25(1950)年には日本側の自治体から寄せられたセンター開設の要望により、東京都で二番目の新宿センターのほか長野、松山、岡山、秋田、北九州の五つのセンターが加わり、全部で 23 館(センター)となった²⁾。CIE 図書館では、アメリカから取り寄せた書籍や雑誌、パンフレット、新聞などを一般市民が利用できるよう公開した。

その後、CIE 図書館はアメリカ文化センター(1952)、アメリカン・センター(1972)と名称を変更するとともに規模の縮小と機能再編を行って今日に至っている。

注

1) 「はじめに」の注 3) 今まど子の諸論文参照。

2) CIE インフォメーション・センターの図書館サービスについて—九州編—／今まど子
図書館学会年報 41(2), 1995. 6. pp. 67-68.

2 松山 CIE 図書館について

松山の CIE 図書館は昭和 25 年 10 月 11 日に開館した¹⁾

松山市の場合、最初の CIE 図書館設置時点では対象から外れていたが、県から設置要望が CIE に出されたようで追加設置になった²⁾。開館は昭和 25 年 10 月 11 日である。この松山 CIE 図書館が設置されてから今日までの歴史は不明なところが多い。

現在筆者が知り得た資料は大変限られたものであり、まことに不十分ではあるがそれを以下に示してみる。

上記「はじめに」で触れたが、敗戦を迎えた当時の松山市がどのような状況にあったかを知っておくことが重要であると思われるので、繰り返しになるが、公刊された資料をもとに、確認しておこうと思う³⁾

松山市は昭和 20 年 7 月 26 日の夜半、B29 の編隊によって空襲を受け市の中心部は灰燼に帰した。罹災戸数 14,300 戸、罹災者は死者 251 人を含め 62,200 人で、罹災戸数は全戸数の 55%、罹災者は人口の 53% に当たる。主な公共建築物は、ほとんど罹災したが県庁・市庁・裁判所・図書館・日本銀行・四国銀行などが焼け残った。愛媛新聞の同年 8 月 21 日付の記事には、

この大戦で B29 の猛威の下に潰滅した全国四十数都市の中でも、最も徹底的焼夷攻撃だったといわれる県都松山は、旧市街地のほとんど九割までが焦土と化し去ったが、城山を背に毅然として立つ県政の心臓県庁は白亜四階の近代的建築を、惜しげもなく迷彩した黒と茶褐の縦縞が恰かも戦争記念のように、どっしりと構えているのだ。

市民の心の拠り所とする市役所は瀟洒な三階の姿を消しておらず、日本金融に不安なしと無言の重味を示す日銀支店と市庁舎の間には日本草創以来の歴史を誇る伊予文化の殿堂県立図書館が業火の中にも遂に健全な伝統を絶たれはしないぞと言いたげに建っている⁴⁾

という一節がある。これは無条件降伏を受け入れた約1週間後の記事である。

このあたりから市民は街の復興に取りかかるわけであるが、『松山文化史』によるとこの年（昭和20年）10月22日に「米占領軍約一万が四国進駐の本隊として、松山に駐屯のため三津浜、梅津寺、及び吉田浜に上陸。市内各所に分営。県庁内及び県立図書館の建物を進駐軍司令部に充て、愛媛県軍政部と称す。」と出ている⁵⁾

注

- 1) 松山市史料集／松山市史料集編集委員会編 第13巻 松山市役所, 1988.4. 第13巻：松山市年表 現代（昭和20年8月以降）pp.295-515
愛媛の昭和史・平成年表 1926-2005／難波 穰著 松山：アトラス出版, 2006.5.（アトラス地域文化新書）p.38.
- 2) 松山市史 松山市史編集委員会編 第四巻 松山市役所, p.211
- 3) 松山市戦災復興誌／戦災復興誌編集委員会編 松山市役所, 昭和44年7月 179p. 図17p. 27cm.
松山市誌／松山市誌編集委員会編 松山：松山市長, 昭和37年9月 14,684p. 図8p. 折畳地図1枚 22cm.
- 4) 松山市誌／松山市誌編集委員会編 松山：松山市長, 昭和37年9月 p.374-375
松山文化史／城戸八洲著 松山：松山史談会, 昭和28年10月 241p. 図14p. 19cm. p.175
- 5) 松山文化史／城戸八洲著 p.178

2.1. 松山 CIE 図書館の変遷について

ここでは、松山 CIE 図書館が開設されてから消滅するまでの流れを「愛媛新聞」の記事、「広報まつやま」等に掲載された記事をもとにたどってみる。これらの記事を、上記の時代背景を念頭に置きながら読んで戴ければ、少しは現実味のある想像が出来るものと思う。

なお、松山 CIE 図書館はアメリカ文化センター、松山市日米文化センター（「広報まつやま」では単に「日米文化センター」あるいは「日米センター」と

いう名称も用いられている。)と名称変更し、場所も転々とするが、名称変更の時期や場所移転の時期の大半は、明らかにできなかった。

2.1.1. 愛媛新聞の記事

松山 CIE 図書館は、最初南堀端市電停留所に近い堀之内に、二階建ての白亜の建物で出発した。この図書館が開館するに当たって、愛媛新聞昭和 25 年 10 月 9 日(月)の第 4 面に「完備した松山 CIE 図書館」と題するかなり長い記事が掲載されている。この記事によれば、

完備した松山 CIE 図書館

これは十一日から開館する松山 CIE 図書館で GHQ 民間情報教育局によって全国に設立された二十のうちの一つであって…アメリカやヨーロッパの著者による数千の書籍と二百種類以上に及ぶ雑誌、新聞、パンフレット、欧米の名曲レコードなどが備えられ誰でも自由に利用することが出来る…この施設は松山市と愛媛県のあらゆる人たちのために開放され教育、レクリエーションに、また実務上に役立つような奉仕を目的としている、アメリカの近代的図書館にならって作られ…開館準備で多忙な同館の館長ドロレス・エベレス女史を訪ねて松山 CIE 図書館の設備と利用方法について聞いてみた。

記事の中の小見出しを拾ってみると「雑誌読書室」「書籍読書室」「図書の貸出」「子供部屋」「講堂・映写室」「音楽室」「十一日に公開」となっている。概要は、

雑誌読書室 アメリカで出版されている約二百種類の雑誌、新聞が窓際の約四十の書棚に並べられ、雑誌名の ABC 順に保管、読者は自由に手にとって読め、読み終わったものは机の上に置いておけばよい。手続は必要ないが、利用者の職業や読書傾向などの統計のための記録をとる。約

百四十人が読書できるスペース。

書籍読書室 一般書籍の読書室は階上にあり、そこには過去十年間にアメリカで出版された定評のある書籍や最新刊書等あらゆる部門の書籍が数千冊あり、雑誌室同様利用者が自由に手にとって読むことが出来る。希望の図書を容易に発見するために、アルファベット順の著者名、書名及び項目別のカード索引目録が備え付けられている。また、見あたらぬ時は館員に尋ね、無い場合は他の CIE 図書館から取り寄せることが出来る。約百人が読書できる広さである。

図書の貸出 約一千冊の図書に限って貸出する。米穀配給通帳など身分証明があれば誰でも二週間の貸出を受けられるが、期間内に確実に返却しなければならない。手続をすれば貸出の延長も出来る。貸出の場合は係員に口頭で申し出ればよく、料金は必要ない。

子供部屋 子供部屋は階下の読者室の右側にあり、大体十歳以下の子供たちが自由に利用でき、大人も保護者に限って入室できる。美しい絵入りの書籍、雑誌が置かれていて、ここでは「お話の会」などが催される。

講堂、映写室 階下、読書室の左側にあり、約百五十人を収容できる。ここには、十六ミリの映写設備と天然色幻灯の設備があり、教育的な映画、幻灯のほか講演、英語の会その他の催し物にも利用され、一般文化団体の会合にも出来るだけ協力し利用が許される。

音楽室 二階読書室の左側に特別室として防音設備などの完備した音楽室がある。古典音楽から現代音楽まで豊富なレコードがあり、近代音楽は毎日昼の時間、古典音楽は日曜日の午後に聞くことが出来る。将来レコードが整備されれば外部のコンサートや教室用に貸出も予定されている。

次いで、同年10月26日(木)の愛媛新聞第4面「読書」欄に「子供部屋も繁昌親しまれる CIE 図書館」という記事が掲載されている。これは松山 CIE 図書館が開館して2週間後のものである。一日の利用者は平均200~300名で増加

傾向にある。利用者の6割が愛大、語専、高校等の学生や先生、女性は約3割。貸出状況を見ると、雑誌は一日平均3冊から4冊、書籍は一日平均20冊。貸出の傾向を見ると、「若い人たちにはスポーツ書が多く、学生が多いので語学の研究書、参考書がよく出る、このほか大学の先生たちはそれぞれ専門書を利用しているが一般社会人にはラジオ、土木関係の書物がよく利用されており小説類も出ている、哲学、宗教書類はほとんど出ない…衣・食・住や家政方面の書物がほとんど婦人に利用されないのは洋書を利用し得るだけの能力がないからでもあろう 子供の部屋では美しい挿絵入りの“お菓子の家”“白雪姫”“赤ずきん”など一日平均八冊ぐらいの貸出しがある」と。

その後、愛媛新聞にはCIE図書館、松山アメリカ文化センター（あるいは、アメリカ文化センター）、日米文化センターに関する記事は今のところ見つからない。

2.1.2. 「広報まつやま」の記事

「広報まつやま」には上記の愛媛新聞の記事以前からのCIE図書館に関連する記事が出ている。以下、CIE図書館（およびそれを継承したアメリカ文化センター、松山日米文化センター）の図書館活動に関連する記事を年表風に列記してみる¹⁾

ここで使用するのは平成元年に刊行された（第I冊の冒頭にある「発刊にあたって」に記載された年月日から推定）「広報まつやま」の縮刷版全5冊（収録期間：昭和23年10月1日～昭和63年12月）である。この縮刷版に関する書誌的事項は注記で詳しく述べる。

なお、引用した原文は送り仮名などで一定していないが、原文のとおりとした。また、電話番号など横書きにすると読みにくい数字については、漢数字を算用数字に改めたが住所などは原文のとおりとした。

昭和24年1月1日 米国陸軍省所有十六ミリ発声映写機について 教育課

視聴覚教育を振興し、我が国民の国際認識に対する啓蒙と民主化を図るため、連合軍総司令部では、全国都道府県に十六ミリ発声映写機及び映画を貸与…

そこで視聴覚教育に理解と熱意をもつ…視聴覚教育の振興、協議、運営、実行の機関として各地並みに松山市に、それぞれ視聴覚教育委員会を設置していただくことに、目下奔走中…

昭和24年5月1日 松山CIE読書室のありかた 市民課

愛媛県会議事堂・県議会図書室の一角にてアメリカの書籍等の閲覧や貸出を行う。

貸出は「信用ある希望者に限り三冊まで一週間」 閲覧料は無料

*『近代日本図書館の歩み 地方編』に収録された愛媛県年表には、この記事に先立つものとして「昭和22(1947)年10月 愛媛CIE読書室を開設」と出ている。典拠は県立図書館に残されているメモによっているが、メモには開設場所の記載はないので、上記の場所に開設されたものと思われる²⁾

昭和26年5月1日 市民の皆様え C・I・E図書館について

館長 ミス・ドロレス・エベレスによるCIE図書館の紹介。「松山堀之内連合軍最高司令部民間情報教育局図書館(CIE図書館)は四国この地方の人々のために、六ヶ月の奉仕をして参りました。」で始まり、児童室、雑誌読書室、書籍部、パンフレット部、レコード部、映画プログラム、展示資料について4ページにわたって説明している。これは前掲の愛媛新聞の記事に対応している。

*以後、昭和35年7月までCIE図書館およびその後身である日米文化センターの記事は掲載されていない。

昭和35年7月1日 「ACC」・松山市へ移管

松山アメリカ文化センター(ACC・堀の内)は7月1日から「松山市日米文化センター」になる。

*松山 CIE 図書館から松山アメリカ文化センターと名称変更されたのが何時のことか不明。『松山文化史』の昭和 27 年の記事および後述する高松 CIE 図書館の名称変更や高知アメリカ文化センターの設置などから、この名称変更は昭和 27 (1952) 年の前半に行われたものと思われる。

昭和 35 年 8 月 1 日 JACC 新入荷書 *JACC=松山市日米文化センター
翻訳書 2 点, 英文図書 1 点の簡単な紹介

昭和 36 年 3 月 1 日 JACC 図書館の利用

堀之内, 日米文化センター (電話 2-7060) は, もとのアメリカ文化センターを受け継いだものでありますが, 松山市の経営に移されましたので, 一層, 市民のみなさんと親しい関係になりました。

○蔵書も, 従来通り, アメリカ物 (英文・和文) の送付を受けるばかりでなく, 日本物や, 他の外国物の日本語訳も, だんだん購入して行く方針でありますので, アメリカの原書や, その他の資料が豊かな点に特色をもつ, 市公共図書館といったかたちで, ますます広く, 市民のみなさんの御希望にそえるようになります。

(中略)

○なお, 書籍のご利用ばかりが, 図書館の目的ではなく, みなさんが, 知りたいことで, おわかりにならない事項 (特にアメリカに関する事項) を, 調べてお答えするのが, 大切な目的の一つでありますから, ご遠慮なく, 直接, あるいは, ハガキ, 電話等で, お問合わせ下さい。

○開館=毎日 10 時から 18 時まで (ただし日・月曜および祝日は除く)

昭和 38 年 1 月 1 日 待望の「市民会館」実現へ 堀之内へ三カ年計画で建設

堀之内の日米文化センターを移転し, そのあと一帯へ市民会館を建て, …

*市民会館建設が決まったことにより, この年度の初めから中央公民

館（昭和34年10月開館）へ移転したものと思われる。

*同年5月以降、「中央公民館だより」の記事の一部に日米センターからのお知らせが載っている。図書館に関する記事よりも、各種講座の案内が主である。

昭和38年6月1日 中央公民館だより

日米文化センター 図書室 従前どおり 午前10時～午後6時まで英語クラス（中央公民館三会議室）児童英語塾（番町小学校）

昭和38年10月1日 日米文化センターから

読書室 無料公開

松山市日米文化センター読書室（図書館＝中央公民館二階）は、一般に無料公開されていて、図書の配置は開架開放式ですから、どなたでも自由に入出りできるし、利用者は図書を自由に選んで読むことができます。

学術研究者、学生はもちろん、市民のみなさんはどなたでも気軽に利用されるようお願いいたします。

読書室は日米文化センターが最も力をそそいでいるものの一つで、所蔵各種資料のうち、蔵書数は米国提供のもの約15,000冊（洋書10,000、和書5,000）ならびに市購入のものが約1,000冊あり、ほかにパンフレット等の資料を多数そなえております。

蔵書の範囲は政治、経済、社会、科学、学芸、その他各分野にわたっております。毎月新刊書も補充されております。

もしご希望の図書がない場合でも、他のセンター図書館との相互貸借制度があって利用の便をはかっております。

このほかに米国提供の各種雑誌、約100種類をそなえ、それらのバックナンバーも10,000部を越える部数を所蔵しており、また市購入雑誌も数種をそなえております。

最近とくに一般の関心の深まっている科学、経営、経済、文学、ス

ポーツ、趣味、娯楽に関する図書、約 250 冊を重点的に選んで市購入図書計画の一部として補充増強いたしました。

参考質問事務は、電話または信書でも受け付け、質問事項について所蔵の資料により調べまして、できる限りの回答をいたします。

図書および資料の貸出しは会員制度（無料）になっておりますが、どなたでも身分証明、または米穀通帳および印鑑ご持参のうえ、登録のお申込みをすれば、無料で、すぐ会員になり貸出しが得られます。（ただし特別資料で図書館常備のものには貸出しをしないものもあります。）

みなさん多数のご利用をお待ちしております。

映写機の利用（略）

今月の講座

松山市日米文化センターは、中央公民館に借家住まいをしていますが、事業面では、がっちりばば広く活躍しています。（以下、略）

*この号から、再び「日米文化センターから」の記事が「中央公民館だより」から独立する。（昭和 45 年 9 月まで。）

昭和 40 年 3 月 1 日 日米文化センターから

大街道三丁目ロープウェイ登山口、中央公民館内、松山市日米文化センター

昭和 41 年 1 月 1 日 日米文化センターから

国鉄から感謝状

このほど、日米文化センターの映画部が、国鉄四国支社から感謝状を贈られました。これは三十八年度から現在まで八回にわたり、映画技術の講習会を開き、百三十人もの修得者が生まれたことに対しておくれたものです。…毎月の定期講習による一般社会事業協力者を加えますと三百人以上の技術修得者を数えております。（後略）

児童英語新入生募集（略）

お問い合わせ 電話 (2) 1111 (市役所) の内線 289, または (2) 6713
(中央公民館) 日米文化センター事務所まで

昭和 41 年 5 月 1 日 日米文化センターから

「各種クラス」ご案内 (略)

くわしくは二番町四丁目, 番町小学校内, 松山市日米文化センターへ

*昭和 41 年 3 月は「日米文化センターから」は掲載されているが住所の分かる記載はない。4 月は記事自体がなく, 5 月の記事で住所が番町小学校になっていることから, 年度替わりで中央公民館から移動したのではないかと思われる。また, 1 月 1 日の記事には市役所の電話番号の記載があり, 次の 8 月 1 日の記事で分かるように, この内線番号を引き続き使用しているのので, この頃から業務を移動していたことがうかがえる。

昭和 41 年 8 月 1 日 日米文化センターから

くわしくは電話 (2) 1111 (内線 289) 日米文化センターへ。会場,
二番町四丁目六, 同センター (市役所裏, 番町小学校内)

当文化センターの和英図書, 定期刊行物, 語学録音テープ, 和英 16
ミリ映画の館外貸出し制度の利用を…映画に就いては, 技術講習を毎月
定期に (下旬の土, 日曜) おこなっています。

昭和 42 年 7 月 1 日 日米文化センターから

☆文化センターの場所・電話 お聞きあわせが多いので重ねてお知らせ
します。場所は市役所のうらの番町小学校内 (二番町四丁目六, 学校のう
ら門と正門にセンター表示板が出ています。) でんわは市役所の内線 (21
局 1111 番です。)

昭和 45 年 4 月 1 日 日米文化センターから

外国語 (英語等) クラスの新年度申込み受付中
視聴覚ライブラリーから

◎教育文化映画 (無料貸出) をご利用ください。(中略) お申し込み

は松山日米文化センター内松山市視聴覚ライブラリー（電話 21-1111 内線 289）へ早めに予約をお願いします。

*これまでのフィルムライブラリーからの名称変更。昭和 44 年 4 月 5 日号の記事「言語治療室を開設…」に見える「いわゆる視聴覚ライブラリーを設置し、新規事業としてその成果を期待したい」という記述を反映したのか。

昭和 45 年 9 月 1 日 日米文化センターから

松山市日米文化センター・視聴覚ライブラリーの両施設が八月中旬から、つぎの場所にしばらくの間、移ります。従前同様のご利用をお願いします。

市内堀之内町

（場所）市営球場北東部

（電話）市役所（☎1111）

内線におたずねください。

この仮施設は市、市教委の総合的な諸施設改革のため、ただいま再開の整備に努めております。しばらくご不便をおかけしますが、お許しください。ご利用のおたずねは直接お問い合わせください。

*この記事を最後に『（日米）文化センターから』『視聴覚ライブラリーから』は広報から姿を消す。

注

1) 広報まつやま 復刻版 [刊記なし] 全 5 卷

*この復刻版は次のようになっている。

I：第 1 卷第 1 号（昭和 23 年 10 月 1 日）～第 7 卷第 6 号（昭和 29 年 6 月 1 日）

II～V：第 2 号（昭和 29 年 7 月 1 日）～第 660 号（昭和 63 年 12 月 15 日）

I では巻号表示があり、各号とも 16～25 ページ前後で、標題には「弘報」の文字を使用している。II～V では通号表示となり、しかも創刊号が欠けていて、第 2 号以降を収録している。当初は月 1 回（概ね毎月 1 日）2 ページのものであったが、昭和 35 年 1 月からは 4 ページとなり、昭和 50 年 5 月から月 2 回発行（概ね 1 日と 15 日）となっ

た。また、標題には「広報」の文字を使用し、現在に至っている。

2) 近代日本図書館の歩み 地方編／日本図書館協会編・刊 1992.3. p.668

2.2. 松山市史の記述

①松山市史第四巻に次の記述がある。

[昭和三五・一・五] 堀之内にあるアメリカ文化センター廃止の方針について、県が存続の陳情をしていたのに対し、マッカーサー駐日大使から廃止の方針は変えられない旨の通知が松山市長にあった。松山市は、閉鎖後に日米会館として市が運営する方針を決めており、これに対し、県が存続運動を続けることにしていた¹⁾。

②日米文化センターの盛衰

アメリカ文化センターを前身とする日米文化センターは、市民会館建設で取り壊され、中央公民館（大街道三丁目）の中に移転された。アメリカ文化センターはアメリカ文化のPRに大きな役割を果たし、昭和三五年の閉鎖によって市へ移管されてからも、アメリカ文化交換局から、それまでの図書など設備一切を受け継ぎ、さらに一時補助金として一八〇万円が昭和四〇年六月まで給付された。センターには、図書部、映画部などがあり、洋書を中心に一万冊以上の図書をはじめ、音楽、語学関係のテープレコーダ、海外文化や科学関係の映画フィルム約五〇〇本の貸し出しを行い、英会話講座、エスペラント講習会を開いていたほか、海外からの訪問者との交流の拠点にもなっていた。ところが、市議会から、図書利用が少ないこと、利用者が特定の人に限定されていることなどから、年間約七〇〇万円の予算で九人の館員を置くのは無駄であり、アメリカ文化交換局の補助金が終わったのを機会に廃止すべきだという意見が出された。このため、市教委は昭和四一年度からセンターの規模縮小または廃止の方向を打ち出したが、センター側は、運営の不都合は市の管理の仕方であることを指摘し、むしろ「国際文化都市」としての松山にふさわしい活動にするよう活性化させるべきだと、新たな活動計画を立てた。しかし、昭和四一年に公民館から番町小学校の空教室へ移され

た²⁾

③日米文化センター

番町小学校の空室に移転させられながらも、細々と活動をつづけていた日米文化センターは、その後市営球場に、そして昭和四七年に青少年センター（築山町）の二階に移った。しかし、貴重な多くの文献や資料は青少年センターの倉庫、市営球場の倉庫、民間企業の倉庫などに分散され段ボール箱に詰められたまま眠っていた。昭和五〇年、「国際観光温泉文化都市」にもなっている松山市に、これら貴重な海外蔵書を全部収納できる市立図書館がなく、文化施設の立ち後れが指摘され始めた。それにもかかわらず、昭和五二年八月、青少年センターの図書館が手狭になるという理由で松山こどもの家への移転を強いられた。職員も館長一人で、蔵書の整理もつかず、事務室はあるものの電話はなく、問い合わせに答えることはできないという有様だった。日米文化センターは文化都市のお荷物となってしまった。そこへ、昭和五六年、松山市がサクラメント市と姉妹都市となるに及んで、にわかに英会話教室が好評となり、センターの地道な活動が見直され始めたのだった³⁾

注

- 1) 松山市史／松山市史編集委員会編 第四巻 松山市役所、1995. p. 211
- 2) 同 p. 284-285
- 3) 同 p. 396

2.3. 松山市立中央図書館 覚書^{注)}

視聴覚ライブラリーは松山市立中央図書館の開館後、平成2年4月より青少年センターから移転され、フィルムや機材を団体・学校に無料貸出し、また機材の取扱についての映写技術講習会を開くなどの活動をつづけている。

青少年センターに保管されていた日米文化センターの蔵書や資料・フィルム・レコード等は、松山市立中央図書館が開館した前後に一括して中央図書館に運び込まれたが、長年劣悪な環境下で箱詰めになっていたためか埃やカビの

被害がひどく、フィルムは巻かれたまま張り付いてはがせない、レコードもカビで表面が覆われている状態だった。またレコードは当館では収集の対象となっていなかったため、他機関に打診もしたが引き取り手は現れなかった。

そこで、日米文化センターは全国に点在し存続しており、同様の資料は複数機関に保存されているであろうと判断し、残念ながら当館に運ばれたフィルム・レコードはすべてを廃棄することとなった。

書籍に関してもやはり大半を廃棄せざるを得なかったが、利用可能な一部は蔵書登録された。その書籍と新たに購入した洋書をもとに、正式には平成6年から松山市立中央図書館一般書の一角に洋書コーナーを設置して現在に至っている。ただし、一般書は更新していくという当館の方針のため、現在も残っている日米文化センターの資料はごく少数になっている。

なお、日米文化センターで行われていた英会話教室は、こどもの家に移転された昭和52年以降も、定期講座として行われ続けていたことが「広報まつやま」や市史の記事から分かる。この英語講座・海外交流などについては昭和62年、総合コミュニティセンター内に開設された『まつやま国際交流センター』（現在はコムズ内に移動）に引き継がれた。

注

この「覚書」は、書類として残っているものではなく、市立中央図書館のレファレンス担当米岡さんが、図書館の関係者たちから聞き書きしたものである。市立中央図書館が開館してから既に20年以上経過し、当時の状況をよく知る人たちはもうほとんど残っていないという。開館準備や日米文化センターの蔵書等の引継ぎにあたって、特に記録を残していないらしい。そのため、ここでは記述に正確さを欠いているかもしれない。

2.4. 松山 CIE 図書館の蔵書について

既に見てきたように、松山 CIE 図書館の蔵書の全貌は不明である。その理由は、現在の市立中央図書館に最終的に移管された時点で、蔵書目録に相当するものがなかったらしいことである。「広報まつやま」の記事に時折蔵書数が

概略出てくるけれども、また、新着図書の一部紹介は出てくるけれども、それは蔵書の断片でしかない。

上記のように、CIE 図書館がある時期「アメリカ文化センター」となり、昭和 35 年に松山市へ移管されて「松山市日米文化センター」と名称変更して昭和 38 年に堀之内を離れるまでの間は、蔵書(図書、雑誌、映画フィルム等)の多くはここにあったと思われる。

その後、堀之内の松山市日米文化センターが取り壊されて跡地に市民会館が建設されるに及んで、日米文化センターは放浪の旅に出ることになり、最後に現在の松山市立中央図書館に吸収される。繰り返しになるがそれを示すと、堀之内(昭和 26 年～38 年 3 月?)、大街道三丁目(中央公民館 昭和 38 年 4 月?～41 年 3 月?)、二番町四丁目(番町小学校の空き部屋 昭和 41 年 4 月?～45 年 8 月)、堀之内(市営球場北東部 昭和 45 年 8 月～47 年?月)、築山町(青少年センター 昭和 47 年?月～52 年 7 月)、三番町六丁目(松山こどもの家 昭和 52 年 8 月～62 年 3 月?)、湊町七丁目(市立中央図書館 昭和 62 年 4 月～)となる。

この間の事情は上記 2.2. で述べた『松山市史』および 2.3. の「松山市立中央図書館 覚書」の記述が明らかにしてくれる。また、松山市日米文化センターの蔵書については『松山市史』の③に書かれているように、移転を繰り返す中で、「多くの文献や資料は青少年センターの倉庫、市営球場の倉庫、民間企業の倉庫などに分散され段ボール箱に詰められたまま眠っていた」という極めて悪い状態で保管されていたわけで、「覚書」にあるように大半のものは処分せざるを得なかったのもうなずける。図書館の移転を経験したことのある人には理解できると思うが、図書館(および文化センター)機能を維持しながら移転を繰り返すのは大変なことなのである。

では、実際に松山 CIE 図書館の蔵書はどのようなものであったか。上記 2.1. で摘記した記事および「広報まつやま」に掲載された他の記事(附録 1 参照)から推測してみる。

開館当初は、上記の「愛媛新聞の記事」や「広報まつやま」に掲載されたエベレス館長の記事にあるように、あらゆる分野の新刊図書数千冊および雑誌約二百種を備えていた。(ただし、具体的なタイトルや分野ごとの冊数を知る手掛かりは今のところない。)

その後、講和条約の発効により連合国軍が撤退して、CIE図書館はアメリカ文化センターと名称変更し、松山市へ移管されて松山日米文化センターとなった後、大街道の中央公民館へ移転した。この時期の蔵書数は、「米国提供のもの約15,000冊(洋書10,000, 和書5,000)市購入のもの約1,000冊」その他にパンフレットおよび新刊雑誌約100種とそのバックナンバー約10,000冊あった。」「(「広報まつやま」昭和38年10月1日の記事参照。)

次いで、昭和42年8月1日の記事ではほぼ同じ、昭和58年6月15日の記事では和書4,238冊、洋書10,778冊、昭和59年3月1日の記事で和書4,370冊、洋書10,822冊、昭和61年5月1日の記事では和書4,450冊、洋書10,842冊となっていて、雑誌のバックナンバーを除いて概ね15,000~16,000冊の蔵書を維持していたことが分かる。

以上のような次第で、松山CIE図書館蔵書の全貌とその図書館活動の目指したところは明確にできなかった。しかし、このCIE図書館(およびその後の文化センター)の目的が「アメリカ文化のPR」にあったとすれば、今日一般的に考えられている公共図書館の「資料の収集・整理・保存・提供」という基本的な機能のうち、最新の資料提供に重点を置いた活動を展開していたと考えてもいいのかもしれない。また、実際の図書館のスペースが雑誌のバックナンバーを含めて30,000冊弱収容の書架スペースと閲覧座席に限られていたのではないかと推測される。その結果、後述するように愛媛大学や松山商科大学へかなりの蔵書を寄贈したとも考えられる。即ち、カード目録は備えていたようであるが、蔵書目録(あるいは単なるリスト)を作成する必要がなかったのかもしれない。市議会でお荷物扱いにされてからは職員も減らされたようであるし、最後は館長一人になっていたという状況を考えれば無理もないことであ

ろう。

また、センターとしては比較的利用の少ない専門書を大学へ寄贈したとも考えられる。新制大学として発足間もない愛媛大学や松山商科大学にとっては、当時の大学設置基準を満たすだけの洋書を揃えることが今日ほど容易ではなかったことを思えば、大学側にとって洋書（＝英語の図書）を寄贈されることは、それだけでも充分意義のあることであったのではないか。一方センター側としては、このこともアメリカ文化紹介活動の一環と考えたのかもしれない。

3 松山市以外の四国の CIE 図書館

ここで参考のために、四国に設置された CIE 図書館の動向について簡単に触れる。

高松 CIE 図書館

高松 CIE 図書館は昭和 23（1948）年 8 月に、高松市南新町旧池田屋ビルに開設された。高松市は松山市同様に空襲に遭い、県立図書館は 9 万冊の蔵書を焼失した。県立図書館の蔵書疎開が十分行えないうちに空襲を受けたためである。

昭和 21 年には戦災を免れた図書を中心に県立図書館の活動を疎開先で開始し、米軍の四国軍政部からの支援を受けながら復興に着手した。CIE 図書館が開設された後、昭和 24 年末の状況は職員 8 名、蔵書は 6,853 冊、雑誌・パンフレット 356 点で、「当時は女子高校生や婦人にアメリカ服飾雑誌が大人気で、熱心に模写する風景が見られた。」

昭和 27（1952）年 5 月、管轄が米国国務省広報局に移って高松アメリカ文化センターと改称された。翌年 10 月には県教育委員会社会教育課に移管され、名称も香川県日米文化会館となり、県立図書館の分館として同月 14 日に開館した¹⁾。

高知日米文化センター

高知県の場合は、当初 CIE 図書館は設置されなかった。高知県立図書館も高松同様に、昭和 20 年 7 月 4 日の空襲で疎開を予定していた貴重な蔵書 13 万冊が県立図書館とともに灰燼に帰した。昭和 25 (1950) 年 6 月に新築の県立図書館が開館した。

日米センター (ACC センター) は昭和 28 (1953) 年 6 月に県立図書館本館に増築された建物に移転してきた。このセンターは「1950 年の高知軍政部廃止に伴い、CIE (民間情報局) 図書館を県が引き受けることになり、高松民政部 CIE 図書館高知分館として…これが 51 年の対日講和条約の締結に伴い、大使館文化交流局 (USIS) 管轄の松山アメリカ文化センター高知分館となり、県立図書館に居を移してきた…移転時には、洋書 3500 冊、雑誌 300 種、児童用図書 1000 冊、係員 2 名であった。」「このセンターは、1960 年に松山アメリカ文化センターが廃止されたのに伴い、広島アメリカ文化センターの管轄下に入り、この時「高知日米センターと改称されている。この間、アメリカ側からの図書、雑誌の資料提供を受けて…そして 1970 年の県立図書館の機構改革に伴い、館に吸収される形で発展的に解消」された²⁾

以上のように、四国には CIE 図書館が高松と松山に設置され、高知には分館という形で CIE 図書館があったけれども、松山では市に移管され、高松と高知では県に移管された。松山市の場合は上記の通り、CIE 図書館の蔵書が時の経過とともに分解していったわけで、次に述べるようにその一部が松山大学と愛媛大学の図書館に眠っている。この点に関しては、神奈川県立図書館や神戸市立図書館のように、まとまった形で CIE 図書館の蔵書を利用できる状態にはない³⁾

注

- 1) 近代日本図書館の歩み 地方編/日本図書館協会編・刊 1992.3. pp.667-668
- 2) 同上書 pp.699-700

- 3) 石原真理：アメリカ文化センター設置のねらいー神奈川県立図書館所蔵アメリカ文化センター資料の分析を通してー

http://wwwsoc.nii.ac.jp/mslis/am2008yoko/12_isihara.pdf（最終確認 2010.05.15）

4 松山大学に所蔵されている松山 CIE 図書館の蔵書，その他について

4.1. 松山大学に所蔵されている松山 CIE 図書館の蔵書について

松山大学に所蔵されている GHQ/CIE 図書館の蔵書は昭和 31 年（1 月～11 月）及び昭和 34 年（1 月～5 月）に寄贈受入されたものである。総冊数は 697 冊で、それらの図書が扱っている分野は多岐にわたっている。また、昭和 35 年以降昭和 40 年 5 月にかけて寄贈された図書がありその総数は 335 冊である。以上を合計すると、1,032 冊になる。その上、昭和 36 年からは広島 ACC から寄贈された英語の図書が別に 157 冊、東京 ACC から数冊寄贈を受けている。以下、昭和 34 年までに寄贈されたものについて、現在の分類（NDC）に従って、その大まかな構成比率を示すと次のようになる。

総記 7%，哲学・心理学・宗教 2%，歴史・地理 7%，社会科学 46%，自然科学 5%，工学 4%，産業・通信 7%，言語・語学 1%，文学 17%

しかしながら、正確なところは図書原簿と実物の照合が必要になる。原簿の記載は担当者が交代したことが分かり、記載されている事項が必ずしも統一されていないように見受けられる。今回の調査では図書原簿と実物の照合は行っていないので、改めて調査しなければならない。例えば、原簿上では寄贈された図書（洋書）であることが分かっても、寄贈者名が記載されていない洋書が多数あるし、CIE の後を受けついただと考えられるアメリカ文化交換局（USIS）の印が捺されている図書もかなり存在するからである。

4.2. 松山大学に所蔵されている US Army の図書について

松山大学図書館には上記の CIE 図書館蔵書の他に、昭和 34 年に US Army の

印のある英語の図書が多数寄贈されている。総冊数は949冊であり、そのほとんどが1940年代の後半から1950年代にかけての小説類及びスポーツ関係の図書である。

県立図書館に100冊余の軍政部からの寄贈図書（英文）がある。県立図書館の場合はカード目録（分類目録のみ）が残されており、そのカードには「軍政部」の印が捺されている。松山市の場合、CIE図書館の蔵書は分散され、その一部を市立中央図書館が引き継いでいる一方で、県立図書館はCIE図書館の蔵書を引き継がず軍政部の図書を引き継いでいる。これは戦後の混乱した時代の断面を示しているといえよう。

5 松山大学以外に寄贈されたCIE図書館の蔵書について

以下は、河野建二元愛媛大学附属図書館情報サービス課長の調査によるものである。

愛媛大学の場合、寄贈者は松山CIE図書館（松山アメリカ文化センター（ACC）、松山日米文化センターを含む）だけでなく連合軍最高司令部、愛媛軍政部、総司令部民政局、在日米軍司令部、米国大使館文化交換局、広島アメリカ文化センター等から図書の寄贈を受けており、その総数は洋書と和書を合わせて、1,250冊（洋書886冊、和書364冊）に上っている。寄贈を受けた期間は昭和22年6月から昭和38年11月である。これら寄贈図書のうち、昭和22年から23年にかけて寄贈を受けているのは、やがて愛媛大学の母体の一つとなる師範学校に寄贈されたもので洋書246冊である。

上記の図書のうち松山CIE図書館及び松山アメリカ文化センター、松山日米文化センターからの寄贈図書は洋書が499冊、和書が308冊、合計807冊である。広島アメリカ文化センターからの寄贈は洋書が75冊、和書が54冊である。

お わ り に

以上、松山 CIE 図書館について調査できたところを述べてきたが、意外に松山というところは過去の積み上げが行われていないという感想を持った。少なくとも図書館行政に関しては、明治初期の混乱状態を戦後も繰り返しているように思われる。つまり、図書館行政の欠如である。「広報まつやま」の記事を見ている限り、何年か毎にキャンペーンを打ち上げて、それに向かって動くけれども、それ以前のを継承し積み上げて行くことをしないように見受けられる。CIE 図書館のことを持ち上げたと思うと次には中央公民館、さらに国際観光温泉文化都市宣言をした時点では CIE 図書館のことが忘れられ、中央公民館の活動を推進した後では、総合コミュニティセンターを立ち上げているけれども、いずれも連続性をもって発展してきたと思われぬのが不思議である。戦後、アメリカの肩入れとはいえ、新しい図書館が持ち込まれたのを上手に使いこなしていれば、文化都市として他に誇れる地方都市の面目を維持できたかもしれないのである。行政側の図書館を含めた文化に対する評価の低さを示していると考えてもいいかもしれない。

もっとも、以上のような捉え方は一面的であり、尚古的であると指摘されるかもしれない。確かに、都市の発展にはスクラップ・アンド・ビルドは当然のことで、そのことは文化行政についてもいえるだろう。しかしながら、現在は過去の層を土台にしているのであるから、せめてその土台となったものの記録をしっかりと残してほしいと思うのである。

本稿では、松山に CIE 図書館ができた頃この図書館に熱心に通った利用者についての考察にまでは至らなかった。当時この図書館を利用した人たちはどのような思いでここに足を運んでいたのであろうか。大江健三郎が高校生の頃、受験勉強のためにこの図書館で英語の図書を読んでいた、という新聞記事を読んだ記憶がある。「朝日新聞」の連載「伝える言葉」2004. 6. 8；2004. 10. 19）ほかにも新しい世界に胸を躍らせて通った人たちはたくさんいた

と思う。その人たちから当時の様子を聞きたいと思うのであるが、もはや聞き取りもできないかもしれない。

最後に、ここで使用した各種資料は、県立図書館の古茂田氏の懇切な示唆によるものであり、また、古茂田氏の斡旋で松山市立図書館の図書館員の協力を得たものである。さらに、このたびの調査には松山大学図書館の許可を得て、図書館の原簿を見せて戴いた。お世話になったお礼を述べておきたい。寄贈図書には「GHQ/CIE」「SCAP/CIE」「松山 ACC」などの蔵書印が捺されているものと、「US Army」の印が捺されているものがあり、実物でもその区別が出来る。

なお、ここでは煩雑になるのを避けて、松山大学が所蔵する松山 CIE 図書館等から寄贈された図書の一覧（附録2）を省略した。いずれ一連のリストを作成する予定であり、機会があれば後日発表したい。

(2010.5.28)

附録1 「広報まつやま」に掲載された松山 CIE 図書館およびアメリカ文化センター、松山市日米文化センター等に関する記事一覧

昭和24年1月1日 米国陸軍省所有十六ミリ発声映写機について 教育課
視聴覚教育を振興し、我が国民の国際認識に対する啓蒙と民主化を図るため、連合軍総司令部では、全国都道府県に十六ミリ発声映写機及び映画を貸与…

そこで視聴覚教育に理解と熱意をもつ…視聴覚教育の振興、協議、運営、実行の機関として各地並みに松山市に、それぞれ視聴覚教育委員会を設置していただくことに、目下奔走中…

昭和24年5月1日 松山 CIE 読書室のありかた 市民課

…さきに軍政部の厚意によりて、市民の皆様にご提供して下さった松

山 CIE 読書室は実に日本の文化教養の為になされた施設の一部であつ
[て] 蔵書は誠に結構な書籍と雑誌であります。(中略) 市民の皆様は、
こ [の] 様な立派 [な] 機関がせつかく備わりながら或る限られた一部
の人のみによつて専用せられることは甚だ遺憾とするは申すまでもな
く、軍政部の厚意にそわない訳ですから皆様は自由に遠慮なく松山 CIE
読書室を利用され新智識の探究に努められんことを希うものでありま
す。最後に CIE 読書室手引上の参考として次の事項を皆様にお伝えし
て置きます。

松山 CIE 読書室えの手引

一、松山 CIE の所在

愛媛県庁西隣の愛媛県会議事堂一階奥づめ、左側（県議会図書室
と同室）

一、図書の種類

アタ [メ] リカの書籍 おおむね各種雑誌

一、閲覧時間

午前九時から午後四時まで 但し日曜祭日を除く

一、貸 出

信用のある希望者に限り三冊まで一週間を限り持ち帰りを許す但
し返還期日は正確を要す。

一、閲覧料 無 料

*この記事の「さきに軍政部の厚意により…」とあるのは、『近代日
本図書館の歩み 地方編』に収録された愛媛県年表の「昭和 22
(1947) 年 10 月 愛媛 CIE 読書室を開設」という記事に対応する。
この年表の典拠は県立図書館に残されているメモによっている。メ
モには開設場所の記載はないので、上記の場所に開設されたものと
思われる。この弘報が創刊される前のことである。

昭和 26 年 5 月 1 日 市民の皆様え C・I・E 図書館について

館長 ミス・ドロレス・エベレスによる CIE 図書館の紹介。「松山堀之内連合軍最高司令部民間情報教育局図書館（CIE 図書館）は四国のこの地方の人々のために、六ヶ月の奉仕をして参りました。」で始まり、児童室、雑誌読書室、書籍部、パンフレット部、レコード部、映画プログラム、展示資料について4ページにわたって説明している。

*以後、昭和35年7月まで CIE 図書館およびその後身である日米文化センターの記事は掲載されていない。

昭和34年11月1日 市中央公民館 開館 せいぜいご利用下さい

松山市中央公民館がいよいよ看板を上げました。

城山の東ふもと、元ドレスメーカー女学院あとの鉄筋三階建ての建物に開館したもので、一階の南側半分は、ロープウェイの待合室にあてています。

昭和35年7月1日 「ACC」・松山市へ移管

松山アメリカ文化センター（ACC・堀の内）は、こんどその施設と運営のすべてを松山市に移管されることとなり、7月1日から「松山市日米文化センター」として、新しく発足いたしました。

松山市は、従来どおりこの施設を通じて、日米親善のため市民のみさんのほか広く県民の利用をはかることとしています。

*松山 CIE 図書館から松山アメリカ文化センターと名称変更されたのが何時のことか不明。後述する高松 CIE 図書館の名称変更や高知アメリカ文化センターの設置などから、この名称変更は昭和27（1952）年の後半に行われたものと思われる。

昭和35年8月1日 JACC 新入荷書 *JACC=松山市日米文化センター

翻訳書2点、英文図書1点の簡単な紹介

①もの思う頃 田中西二郎訳 ②ヒューマン・リレーションズ（人間関係）の真理 山口辰六郎訳 ③Predicting Delinquency and Crime (Glueck)

昭和 35 年 9 月 1 日 たかめる文化の交流 日米文化センターの活動

七月一日から、あらたな発足をした松山市日米文化センター(堀の内)は、松山市が運営し、アメリカ側から、書籍、フィルム、レコード、展示物などの提供をうけて、松山市地方の人びとと、アメリカ人との文化交流をたかめ、おたがいの理解をたかめ、おたがいの理解を深めてゆくようつとめています。

そしてつぎのような活動をしていますから、市民のみなさんにご利用ください。

- ①手紙、展示物の交換
- ②講演、研究会、講座
- ③図書、雑誌、新聞等の閲覧

一万五千冊にあまるいろいろの図書、百数十種類にわたる雑誌をあつめており、多くの日本語版があります。これら図書雑誌は閲覧室で読むことになっていますが、貸出しもしています。

またここにはない図書や雑誌も「図書館相互貸借」制度という仕組みがあつて、入手できるように成っています。

さらに他の図書館や公民館、団体等に対する貸出し文庫もしています。

- ④音楽と語学レコード

米国大使館の文化交流局から、定期的に配布されるテープを使って、音楽会を開催…

- ⑤図書、雑誌の贈呈、パンフレットの配布

アメリカの経済、社会、政治面を主として取り扱っている図書の贈呈や…

- ⑥映画

米国の生活を説明する…フィルムを備えて…映画会が催されるほか、映画のフィルム、映写機、映写幕は公民館、学校その他の責任

ある団体に貸出しています。希望者が一定数になると、映写技師養成講習会を開催して、修了者には証明書を交付しています。

⑦展示

⑧施設の利用

⑨開館時間

火曜日から土曜日まで、午前十時から午後六時まで開いています。日曜と月曜、祝祭日は休館日となっています。

くわしいことについては、日米文化センターへお問い合わせください。

昭和35年11月1日 写真同好のつどい 詳しいことは堀の内日米文化センターへ（電 2-0706）

昭和35年12月1日 中央公民館だより

映写技術講座 中央公民館及び日米文化センターにて

昭和36年2月1日 日米文化センターだより

堀の内の日米文化センターで、成人教養講座を開催

昭和36年3月1日 JACC 図書館の利用

堀之内、松山市日米文化センター（電話 2-0706）は、もとのアメリカ文化センターを、受けついだものでありますが、松山市の経営に移されましたので、一層、市民のみなさんと親しい関係になりました。

○蔵書も、従来通り、アメリカ物（英文・和文）の送付を受けるばかりでなく、日本物や、他の外国物の日本語訳も、だんだん購入して行く方針でありますので、アメリカの原書や、その他の資料が豊かな点に特色をもつ、市公共図書館といったかたちで、ますます広く、市民のみなさんの御希望にそえるようになります。

○みなさんのご研究・ご修養・またはご趣味のための読書に要する費用のご負担が、市の費用とアメリカの好意とによって、少しでも少なくすむように願っています。

○身分証明書のようなものと、認め印とをお持ちになって、一度登録しておかれると、館外持ち出しができます。

○学校や、団体へは、文庫貸出しの制度もあります。

○なお、書籍のご利用ばかりが、図書館の目的ではなく、みなさんが、知りたいことで、おわかりにならない事項(特にアメリカに関する事項)を、調べてお答えするのが、大切な目的の一つでありますから、ご遠慮なく、直接、あるいは、ハガキ、電話等で、お問合わせ下さい。

○開館＝毎日十時から十八時まで(ただし日・月曜および祝日は除く)

昭和 36 年 10 月 1 日 JACC 日より

昭和 38 年 1 月 1 日 待望の「市民会館」実現へ 堀之内へ三カ年計画で建設

堀之内の日米文化センターを移転し、そのあと一帯へ市民会館を建て、
…

*市民会館建設が決まったことにより、この年度の初めから中央公民館(昭和 34 年 10 月開館)へ移転したと思われる。

昭和 38 年 5 月 10 日 中央公民館日より

日米文化センター 英語クラス(中央公民館三会議室) 児童英語塾(番町小学校) カメラクラブ(中央公民館三会議室)

昭和 38 年 6 月 1 日 中央公民館日より

日米文化センター 図書室 従前どおり 午前十時～午後六時まで 英語クラス(中央公民館三会議室) 児童英語塾(番町小学校)

昭和 38 年 7 月 1 日 中央公民館日より

米国留学奨学生 案内書 中央公民館内日米文化センターにあります。

昭和 38 年 9 月 1 日 中央公民館日より

日米文化センター

昭和 38 年 10 月 1 日 日米文化センターから

読書室 無料公開

松山市日米文化センター読書室（図書館＝中央公民館二階）は、一般に無料公開されていて、図書の配置は開架開放式ですから、どなたでも自由に入出りできるし、利用者は図書を自由に選んで読むことができます。

学術研究者、学生はもちろん、市民のみなさんはどなたでも気軽に利用されるようお願いします。

読書室は日米文化センターが最も力をそそいでいるものの一つで、所蔵各種資料のうち、蔵書数は米国提供のもの約15,000冊（洋書10,000、和書5,000）ならびに市購入のものが約1,000冊あり、ほかにパンフレット等の資料を多数そなえております。

蔵書の範囲は政治、経済、社会、科学、学芸、その他各分野にわたっております。毎月新刊書も補充されております。

もしご希望の図書がない場合でも、他のセンター図書館との相互貸借制度があって利用の便をはかっております。

このほかに米国提供の各種雑誌、約100種類をそなえ、それらのバックナンバーも10,000部を越える部数を所蔵しており、また市購入雑誌も数種をそなえております。

最近とくに一般の関心の深まっている科学、経営、経済、文学、スポーツ、趣味、娯楽に関する図書、約250冊を重点的に選んで市購入図書計画の一部として補充増強いたしました。

参考質問事務は、電話または信書でも受付け、質問事項について所蔵の資料により調べまして、できる限りの回答をいたします。

図書および資料の貸出しは会員制度（無料）になっておりますが、どなたでも身分証明、または米穀通帳および印鑑ご持参のうえ、登録のお申込みをすれば、無料で、すぐ会員になり貸出しが得られます。（ただし特別資料で図書館常備のものには貸出しをしないものもあります。）

みなさん多数のご利用をお待ちしております。

映写機の利用 (略)

今月の講座

松山市日米文化センターは、中央公民館に借家住まいをしています
が、事業面では、がっちりとはば広く活躍しています。(以下、略)

昭和 38 年 11 月 1 日 日米文化センターから

昭和 38 年 12 月 1 日 待望の市民会館・喜びの着工 工費 6 億余円・40 年 5
月に完成へ

日米文化センターから

新着の図書 (略)

映写フィルムのご紹介 (略)

今月の講座 (略)

昭和 39 年 1 月 1 日 日米文化センターから

新着の図書 (略)

新着のフィルム (略)

今月の講座 (略)

昭和 39 年 2 月 1 日 日米文化センターから

新着の図書 (略)

新着のフィルム (略)

今月の講座 (略)

昭和 39 年 3 月 1 日 日米文化センターから

ケネディ大統領について

今月は新着図書紹介にかえて、故米大統領ジョン・F・ケネディに
ついて、当センターにある図書(いずれも日本語)を紹介いたします。

今月の講座 (略)

児童英語クラス

映写フィルム (略)

昭和39年4月1日 日米文化センターから

児童英語クラス

英会話クラス

カメラクラブ

フォークダンス・サークル

USIS 映写技術講習会

映写会

昭和39年6月1日 日米文化センターから

今月の講座

図書部

定期的に購入している雑誌をご紹介します。

日本語版 文芸春秋, 婦人画報, リーダースダイジェスト, 週刊朝日, 日米フォーラム, その他, 世界経済

英語版 アメリカから直送されるもので約94種類あり(農業関係2, 芸術関係12, 図書報道関係5, 商産業関係6, 経済政治法律関係8, 教育心理学関係3, 一般(家庭・流行・読物)23, 歴史地理関係2, 労働と産業関係2, 文学語学関係9, 医学関係5, 自然科学関係1, 化学関係7, 社会学関係1, 統計関係1, 技術関係5種類)これらの中には米国政府出版物もあります。また前記の雑誌もふくめた約170種類のバックナンバーを5~10年単位に年代別に整理していて、いつでもご利用いただけるようになっています。

雑誌の貸出しは身分証明書, または米穀通帳と認印をお持ち下されば, 図書利用カードをお渡ししますから, そのカードで簡単に借りることができます。期間は二週間です。ご利用下さい。

映画部 映写機貸し出し フィルム貸し出し

センター利用時間の変更

事務・映画部 月~金曜日午前8時半~5時, 土曜日午前8時半~

正午まで

図書部 従来通り火～土曜日午前9時～午後6時まで、日・月曜日
休み。

昭和39年7月1日 日米文化センターから

今月の講座

映画部 新着フィルム紹介 技術講習

昭和39年8月1日 日米文化センターから

英会話クラス二学期会員募集 松山児童英語クラス会員募集

*英会話クラスは申込み場所、会場とも中央公民館。児童英語クラス
は申込み場所中央公民館、会場は番町小学校。

昭和39年9月1日 日米文化センターから

図書部

新着図書案内

○邦文 ヘミングウェイ全集。人を動かす。奴隷から学窓に。ジョセフ・ヒコ。民主的進歩のために。自動車泥棒。九つの物語。ガラスの金曜日。アロハ・ハワイ。小集団の社会学。経済学。PSSC 物理学。補追サイバネティックス。アメリカ文学十九世紀。二十世紀アメリカ作家案内。アメリカにおける労使の実態。アメリカのインデアン。原典アメリカ史。歴史的決断。

○英文 リンドン・ジョンソン物語。輝く瞬間（故ケネディ大統領の言葉とムード）。故ケネディ大統領の少年時代。行動の時。ウィリアムフォークナー集。国際連合アメリカ史辞典。アメリカ政府の手引。アメリカの芸術家の横顔。英雄の名声と横顔。ゲティスバーグ宣言。大学の学問と試験問題の調査手引き。ワイオミングの夏。ニグロと白人の若者。大学案内。

英会話フィルムの紹介（略）

昭和39年10月1日 日米文化センターから

新着図書案内（和書。略）

教育映画提供

市民のみなさんが教育映画をご覧になるのは、簡単に借用できて無料です。教育映画は学校教育用と社会教育用と大体二通りに分かれています。松山市日米文化センターには、別に文化映画としてUSISから提供され日米相互理解に役だつフィルムが四百本ほどあります。新しいものもつぎつぎ補給されております。

無料で借用できる教育映画は、県ライブラリー、NHK、貯蓄推進委員会等にあつて各種団体や組織に貸し出しますが、また集会にも利用できるよう便宜をはかってくれます。これを写す映写機は公民館または文化センターで借りることができます。

なお映写技術は満二十歳以上の方なら、男女とも理論四時間ぐらい、実技4時間ぐらいで習得できます。日米文化センターでは毎月、第三土曜日午後1時からと翌日曜日午前9時から講習しております。

昭和39年11月1日 日米文化センターから

新着図書（すべて邦文。略）

USIS 新着フィルム（略。）

昭和40年1月1日 日米文化センターから

新着の図書（すべて邦文。略。）

USIS・新着フィルム（略。）

児童英語クラス会員募集

フォークダンスはいかがですか

昭和40年2月1日 日米文化センターから

新着の図書（邦文。略。）

映写技術講習

昭和40年3月1日 日米文化センターから

日米文化センターでは、次のとおり講座を開きます。これは好評を受

けている講座で、本年の新学期の会員を募集しますから、受講ご希望の方は、早めにお申し込みください。定員に達した場合は随時締め切ります。

児童英語クラス（英会話）

英会話クラス

申込みは、大街道三丁目ロープウェイ登山口，中央公民館内，松山市日米文化センター
映写技術修得者へ

このたび、日米文化センターに「ベル 185 型」という映写機が配置されました。従って、ビクター映写機の取り扱い方をご修得の方は、
おいおい「ベルハウエル」の取り扱い方をご修得願います。

ご修得に要する時間は、一時間半くらいです。

昭和 40 年 5 月 1 日 日米文化センターから

図書館の利用

新年度にあたり、図書館のご利用方法をお知らせします。

昭和 40 年 6 月 1 日 日米文化センターから

映写技術講習会

新着の図書（略）

昭和 40 年 7 月 1 日 日米文化センターから

USIS 新着フィルム（略）

昭和 40 年 8 月 1 日 日米文化センターから

児童英語クラス 2 学期新入生募集（略）

英会話クラス 2 期会員を募集（略）

昭和 40 年 9 月 5 日 日米文化センターから

新着の図書（略）

USIS 近着フィルム（略）

留学おめでとう

昭和40年10月1日 日米文化センターから

催しもの・講座（略）

お貸しします（略）

入荷しました 書物（略） USIS 新着フィルム（略）

映写技術講習会（略）

さし上げます（略）

昭和40年11月1日 日米文化センターから

新しい本の案内（略）

録音テープサービス（略）

映写技術講習会（略）

昭和40年12月1日 日米文化センターから

英会話クラブ会員を募集

当センターでは、みなさんの英会話実習をより楽しくできるように「文化センター英会話クラブ」を設けました。松山に来られる外国人の方を随時、当クラブ員のためにお招きして、英会話実習の機会を提供し、あわせて外国人の物の考え方、その他、各国の風物について勉強していきます。会員になりたい方は、会費（通信連絡費）百円をそえ事務室まで申し出て下さい。

新しく入った図書（略）

英会話クラス会員募集（略）

映写技術講習会（略）

昭和41年1月1日 日米文化センターから

プレゼントします（略）

国鉄から感謝状

このほど、日米文化センターの映画部が、国鉄四国支社から感謝状を贈られました。

これは三十八年度から現在まで八回にわたり、映画技術の講習会を

開き、百三十人も修得者が生まれたことに対しておくれたものです。…毎月の定期講習による一般社会事業協力者を加えますと三百人以上の技術修得者を数えております。(後略)

児童英語新入生募集 (略)

お問い合わせ 電話 (2) 1111 (市役所) の内線 289, または (2) 6713 (中央公民館) 日米文化センター事務所まで

昭和 41 年 2 月 1 日 日米文化センターから

新着図書 (略)

録音テープの紹介 (略)

映画部 (略)

(中央公民館二階・文化センターで)

昭和 41 年 3 月 1 日 日米文化センターから

英語サロン会員受付 (略)

こども英語クラス新学期申込受付中 (略)

基礎英語クラス受付中 (略)

婦人英語クラス募集中 (略)

英語会話クラス受付中 (略)

中学, 高校英語教師セミナー (略)

一六ミリ映写技術講習会 (略)

昭和 41 年 5 月 1 日 日米文化センターから

「各種クラス」ご案内 (略)

くわしくは二番町四丁目, 番町小学校内, 松山市日米文化センターへ。

「文化センターだより」の配布

英語学習などに外国人をご紹介 (略)

*昭和 41 年 3 月は「日米文化センターから」は掲載されているが住所の分かる記載はない。4 月は記事自体がなく, 5 月の記事で住

所が番町小学校になっていることから、年度替わりで中央公民館から移動したのではないかと思われる。また、1月1日の記事で市役所の電話番号も記載があり、次の8月1日の記事で分かるように、この内線番号を引き続き使用しているの、この頃から業務を移動していたことがうかがえる。

昭和41年8月1日 日米文化センターから

秋の新学期各クラスは九月上旬始まります。すべて実地に役立つ英語の実際的指導を、こどもからおとなまで、どの年齢・職業・主婦・能力にも応ぜられるよう仕組んでいます。すべて定員会員制で、若干の欠員申し込みを受け付けます。お早めに…。くわしくは電話(2)1111(内線289)日米文化センターへ。会場、二番町四丁目六、同センター(市役所裏、番町小学校内)

当文化センターの和英図書、定期刊行物、語学録音テープ、和英一六ミリ映画の館外貸出し制度の利用をおすすめします。…映画に就いては、技術講習を毎月定期に(下旬の土、日曜)おこなっています。

昭和42年4月1日 日米文化センター

英語クラス申込み受付

昭和42年5月10日 日米文化センターから

「松山を知らせる英語の会」開設(略)

「映画で英会話を自習する会」(略)

国際補助語「エスペラント」講座はじまる(略)

☆文化センターの場所は、市役所うらの番町小学校内…

昭和42年6月1日 日米文化センターから

「英語入門クラス」開設(略)

「こどもの教育問題等につき、米国教師による講義、講演、座談会の会合」(略)

「英語教授講習会」(略)

昭和 42 年 7 月 1 日 日米文化センターから

実用英語（口語）クラス（略）

☆文化センターの場所・電話 お聞きあわせが多いので重ねてお知らせ
します。場所は市役所のうらの番町小学校内（二番町四丁目六、学校の
うら門と正門にセンター表示板が出ています。）でんわは市役所の
内線（21 局 1111 番です。）

昭和 42 年 8 月 1 日 日米文化センターから

二学期からの英語各クラス申込受付中（略）

日米文化センター 市役所うら番町小内（電話は 21-1111（市役所）の
内線（289）です。

また、図書部（和洋図書 15,000 冊，洋雑誌 80 種，テープライブラリー）
や映画部（日本語フィルム 400 本）も簡単な手続で利用できます。どな
たでもおこしてください。

昭和 42 年 9 月 1 日 日米文化センターから

文化映画（無料貸出）（略）

映写技術習得者へ 今までに貸出していた「ベルハウエル」映写機が、
すべて「ビクター映写機」に変わりました。従って、ベルで映写講習
を受けた方は、お手数ですが、改めてビクターの取扱い方を習ってく
ださい。1 時間半でいど必要。定期講習日は、毎月第三火曜日午後 2
時，当センター。それ以外随時予約による。

英語会話学習クラス（略）

昭和 43 年 3 月 1 日 日米文化センター

新学期英語クラスの参加申込み受付（略）

英語教育者セミナー開設（略）

アメリカ夏期大学研修と旅行（自費，一部補助）ほしゅう中（略）

昭和 43 年 4 月 5 日 日米文化センターから

役にたつ英会話 新たにクラス員募集（略）

当館では、あわせて、外国の研修旅行や留学相談資料紹介、外国人ゲストを招く文化行事、和文英文の図書定期刊物一万数千冊の無料貸出しもあります。

場所は、二番町四の六（番町小学校構内、市役所うら手）電話は市役所（㊟-1111番）の内線、開館時間は月-土曜、午前9時から午後6時までです。

昭和43年7月1日 日米文化センターから

中学生向き英語集中セミナー開設（略）

昭和43年8月1日 日米文化センターから

秋学期の英語学習各クラス申込受付始まる（略）

昭和44年3月1日 日米文化センターから

第三回英語教育セミナー

国際生活体験夏期プログラム

こども英語クラス新学期申込受付中

基礎英語クラス新規受付中

婦人英語文化クラス新規受付

英語入門クラス新規受付

中学生英語クラス新規受付

英会話クラス受付

英語サロン会員受付

昭和44年4月5日 言語治療室を開設 小中学校の増改築六校

(…)本年度は視聴覚による教育を重点的に取り上げ、いわゆる視聴覚ライブラリーを設置し、新規事業としてその成果を期待したいのであります。

日米文化センターから

英語クラスのお申込は早めに

英語クラス参加不可能の方へ

視聴覚部無料貸出映画

文化センター所在地，電話

市内二番町四の六（市役所うら）電話は21局1111番（市役所）
の内線289です。

昭和44年5月5日 日米文化センターから

国際生活体験運動松山訪問団員の受入希望家庭募集中

「海外サロン」開設。第1回5月15日，参加歓迎（自由）

「エスペラント」入門講座開設，申込受付中

語学自習研修用録音テープ貸出し

昭和44年7月1日 日米文化センターから

夏期基礎コース開設

昭和44年8月1日 日米文化センターから

秋からの常設英語クラス

新着映画フィルム紹介 当文化センターのフィルムライブラリーでは約
四百本のフィルム（16ミリカラーまたは白黒）をもち，団体，学校
などの催し，講習のために無料貸出しをしています。（以下，略。）

昭和45年4月1日 日米文化センターから

外国語（英語等）クラスの新年度申込み受付中

視聴覚ライブラリーから

◎教育文化映画（無料貸出）をご利用ください。（中略）お申し込み
は松山日米文化センター内松山市視聴覚ライブラリー（電話21-
1111内線289）へ早めに予約をお願いします。（以下，略。）

*これまでのフィルムライブラリーからの名称変更。昭和44年4月
5日の「いわゆる視聴覚ライブラリーを設置し，新規事業としてそ
の成果を期待したい」を反映したもののか。

昭和45年5月1日 日米文化センターから

英語クラスにぎやかに始まる

視聴覚ライブラリーから

昭和 45 年 6 月 1 日 日米文化センターから

英語学習録音テープの貸出案内

昭和 45 年 7 月 1 日 文化センターから

英会話基本コース（夏期集中講習）申込受付中

視聴覚ライブラリーから

昭和 45 年 8 月 1 日 視聴覚ライブラリーから

新着映画紹介

昭和 45 年 9 月 1 日 日米文化センターから

松山市日米文化センター／視聴覚ライブラリーの両施設が8月中旬から、つぎの場所にしばらくの間、移ります。従前同様のご利用をお願いします。

市内堀之内町

（場所）市営球場北東部

（電話）市役所（21-1111）

内線におたずねください。

この仮施設は市、市教委の総合的な諸施設改革のために、ただいま再開の整備に努めております。しばらくご不便をおかけしますが、お許しください。ご利用のおたずねは直接お問い合わせください。

*この記事を最後に『(日米)文化センターから』『視聴覚ライブラリーから』は広報から姿を消し、次に「日米文化センター」の記事が現れるのは昭和57年になってからである。

昭和 57 年 8 月 15 日 中国語講座 受講生受け付け中

日米文化センター（松山こどもの家三階）電話④ 8812 では、中国語講座の受講生を受け付け中です。

受講できる人＝市内に住むか職場のある人▽定員＝30人で、定員になり次第締め切り▽開講日時＝10月1日から毎週金曜日午後6時から

7時30分まで。

昭和58年3月1日 定期講座受講生募集の記事で久々に日米文化センターの表示で英語講座が掲載されています（青少年センターの講座は英語関連のものなし）。問い合わせ先は、「こどもの家と日米文化センターの教室はTEL④1-8812へ」とあります。

昭和58年5月15日 日米文化センター 電話④3 2025 を新設

日米文化センター（三番町六丁目、松山子どもの家内）に電話④3 2025 を新設しましたので、ご利用ください。

昭和58年6月15日 図書の貸し出し 日米文化センター

日米文化センターでは、和洋図書の貸し出しをしています。16歳以上の人ならだれでも利用できますので、せいぜいご利用ください。

▽閲覧時間 午前8時30分から午後5時まで

▽休館日 毎週月曜日と祝祭日の翌日

▽貸出期間 1ヶ月間（1回につき1人3冊まで）

▽蔵書数 和書 4,238冊、洋書 10,778冊

映画フィルム（432本）や語学テープ（437本）がありません。

▽場所 松山子どもの家3階（三番町6丁目） 電話④3 2025

昭和58年8月15日 図書・映画フィルム貸します 日米文化センター

日米文化センターでは、和洋図書の貸し出しをしています。16歳以上の人ならだれでも利用できますので、せいぜいご利用ください。

▽閲覧時間 午前8時30分から午後5時まで

▽休館日 毎週月曜日と祝祭日の翌日

▽貸出期間 1ヶ月間（1回につき1人3冊まで）

▽蔵書数 和書 4,238冊、洋書 10,778冊

映画フィルム（432本）や語学テープ（437本）がありま

す。

▽場所 松山子どもの家3階（三番町6丁目） 電話㊿2025へ。

昭和59年3月1日 図書・映画フィルム貸します 日米文化センター

日米文化センターでは、和洋図書の閲覧、貸し出しをしていますので
だれでもご利用ください。

▽閲覧時間 午前8時30分から午後5時まで

▽休館日 毎週月曜日と祝祭日の翌日

▽貸出期間 1ヶ月間（1回につき1人3冊まで）

▽蔵書数 和書 4,370冊、洋書 10,822冊

映画フィルム=435本、語学テープ=437本。

▽場所 松山子どもの家3階（三番町六丁目） 電話㊿2025へ。

昭和59年4月15日 外国人のための日本語教室

外国人のための日本語教室を開いています。知り合いの外国人に教えて
あげてください。無料です。

▽日時 毎週水曜日、午後1時30分から3時20分までで、年間30
回。

▽場所 日米文化センター（三番町六丁目松山こどもの家3階）

▽対象 英語のわかる外国人

お問い合わせは、日米文化センター 電話㊿2025へ。

昭和59年7月15日 英会話サロン

▽日時 毎月第2日曜日、午後2時から3時30分まで。

▽場所 日米文化センター（三番町六丁目松山こどもの家3階）

▽申し込み 当日会場で申し込んでください。無料です。

▽ゲスト 8月12日=サクラメントボーイスカウト

9月9日=ハナ・ソフィルカニック・大西さん。

お問い合わせは、日米文化センター 電話㊿2025へ。

昭和61年5月1日 図書・映画フィルム貸します 日米文化センター

日米文化センターでは、和洋図書の閲覧，貸し出しをしています。16歳以上の人ならだれでもご利用できますので、ご利用ください。

▽閲覧時間 午前8時30分から午後5時まで

▽休館日 毎週月曜日と祝祭日の翌日

▽貸出期間 1ヵ月間（1回につき1人3冊まで）

▽蔵書数 和書 4,450冊，洋書 10,842冊

映画フィルム=435本，語学テープ=463本。

▽場所 松山子どもの家3階（三番町六丁目） 電話④2025へ。

*昭和61年度いっぱい松山こどもの家は閉館された（昭和62年3月）。

*昭和62（1987）年4月1日に総合コミュニティセンター開館。松山市立中央図書館は総合コミュニティセンターの一部として開館。この時点で、日米文化センターは終焉を迎え、蔵書のごく一部を市立中央図書館が引き継いだことは、上記の「松山市立中央図書館覚書」に見るとおりである。